

# 静岡県先端農業推進プロジェクト

平成28年9月7日  
静岡県経済産業部

富国有徳の理想郷－しずおか

ふじのくに

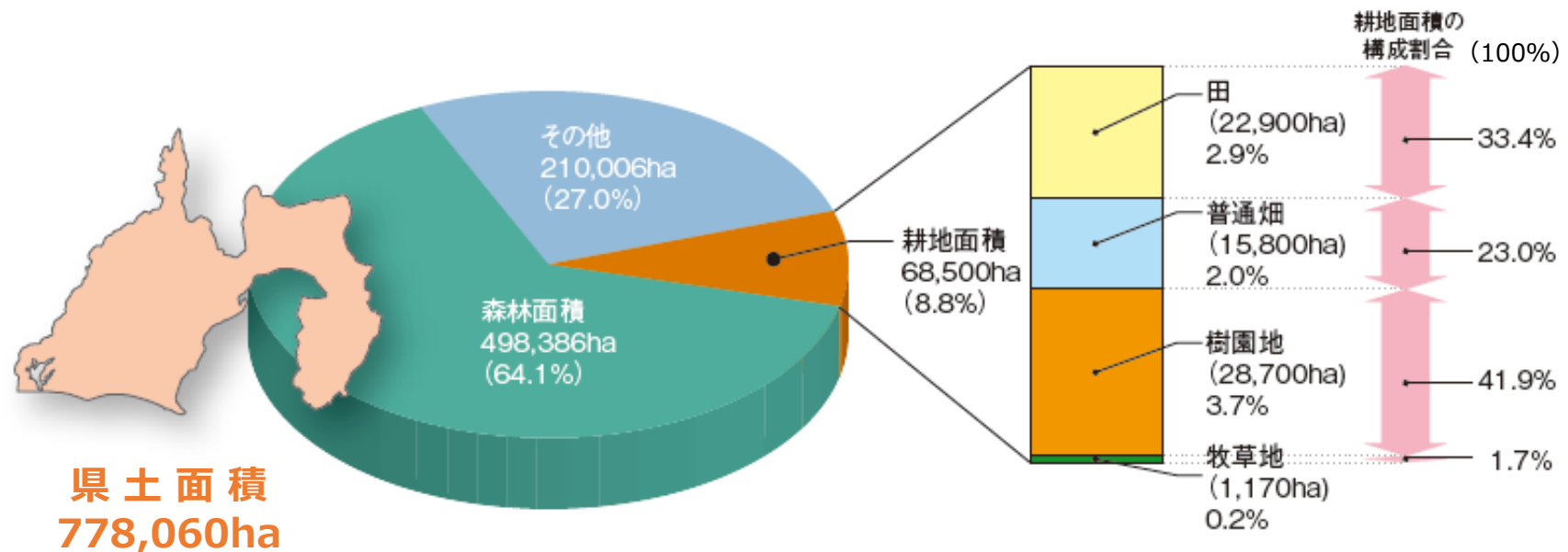


# 本日の内容

- 1. 静岡県農業の現状と課題**
- 2. 目指す姿**
- 3. 先端農業推進プロジェクト**

# 静岡県の農業

- 静岡県では、温暖な気候と変化に富んだ自然環境を利用して数多くの農産物が生産されている。その中でも、茶とみかんは本県を代表する農産物で、品目別産出額の全国順位は茶とみかんが1位。
- 温室メロン、いちご、バラ、ガーベラなどの施設園芸も全国有数の産地を形成し、新品種や新技術の導入により品質の高い多彩な農産物が全国に向け、出荷されている。
- 畜産業も盛んで、銘柄牛や銘柄豚の開発、ブランド化が進められている。
- 静岡県の面積は778,060ha。そのうち、耕地面積（田、畑、樹園地、牧草地）は68,500haと、静岡県の面積全体の約8.8%を占めている。
- また、耕地面積の内訳をみると、樹園地が28,700haと4割以上を占めている。



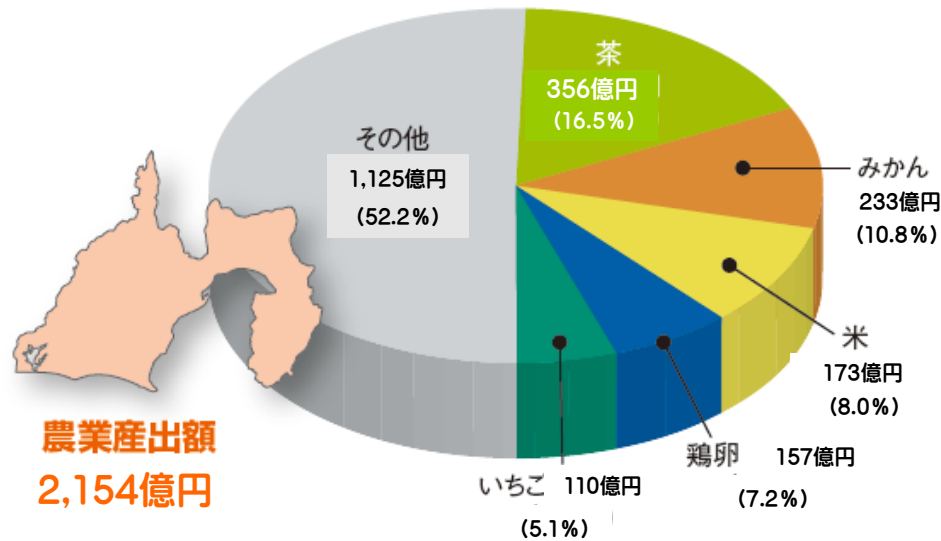
出典：平成26年版耕地面積調査（農林水産省）  
平成26年度版静岡県森林・林業統計要覧（静岡県）

（注）各項目を四捨五入しているため、  
各項目の計と合計値は一致しない。

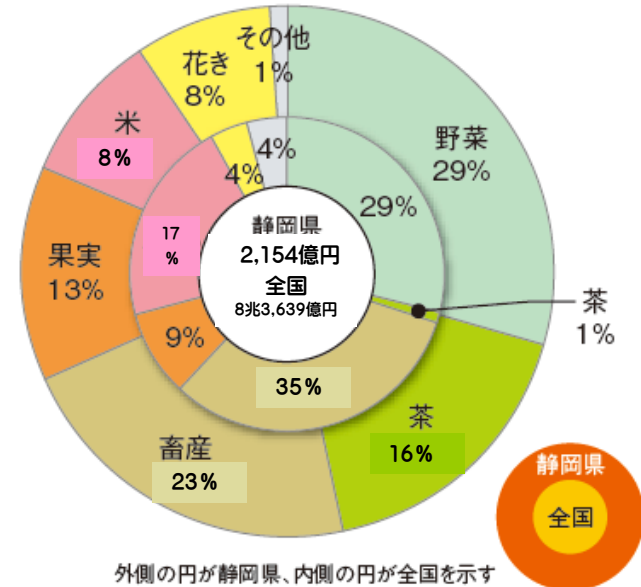
# 静岡県農業

- 平成26年の農業産出額は2,154億円。このうち、産出額上位5品目（茶（生葉+荒茶）、みかん、米、鶏卵、いちご）の合計で、本県産出額の約5割を占めている。
- 農業産出額の構成について全国と比べると、本県は茶、果実、花きの割合が高く、米、畜産の割合が低い。

農業産出額の構成割合（静岡県、品目別）



農業産出額の作物別構成割合（静岡県、全国）



1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	計
茶 (生葉+荒茶) わさび ガーベラ みかん	チンゲンサイ ばら、セルリー 切り枝	いちご	メロン	洋ラン(鉢)	きく たまねぎ しょうが ばれいしょ	ねぎ	レタス	かんしょ さといも かき	—	20品目

(注) 全国順位が10位以内、かつ、本県における産出順位が30位以内のものを掲載

個人、法人等の個々の秘密に属する事項を秘匿する理由から数値が公表されていない都道府県については除外して算出した。

出典：平成26年度「生産農業所得統計」農林水産省

# 静岡県農業の課題①

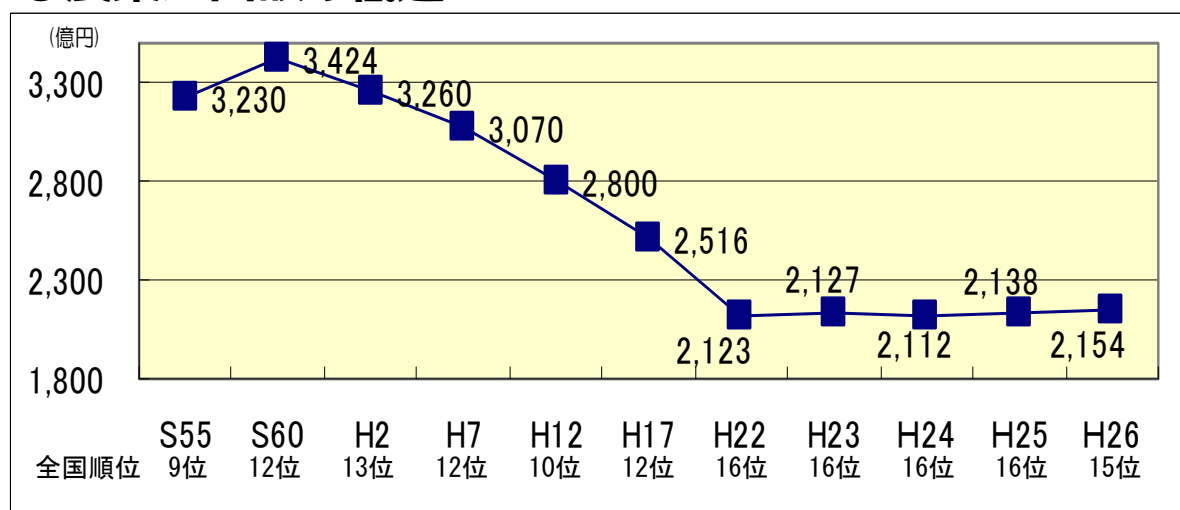
## ○農業就農人口の減少・高齢化

	15～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80歳 以上	計(人)
H22	3,634 (5%)	4,026 (6%)	10,525 (15%)	17,854 (25%)	22,552 (32%)	12,276 (17%)	70,867 —
H27	3,158 (6%)	2,956 (5%)	7,043 (12%)	16,449 (29%)	16,796 (29%)	10,920 (19%)	57,322 —

販売農家の世帯員数は、急速な減少傾向にあり、また、60歳以上が人口の77%を占めるなど、高齢化が進行。

⇒ピンチであり、チャンスでもある

## ○農業産出額の低迷



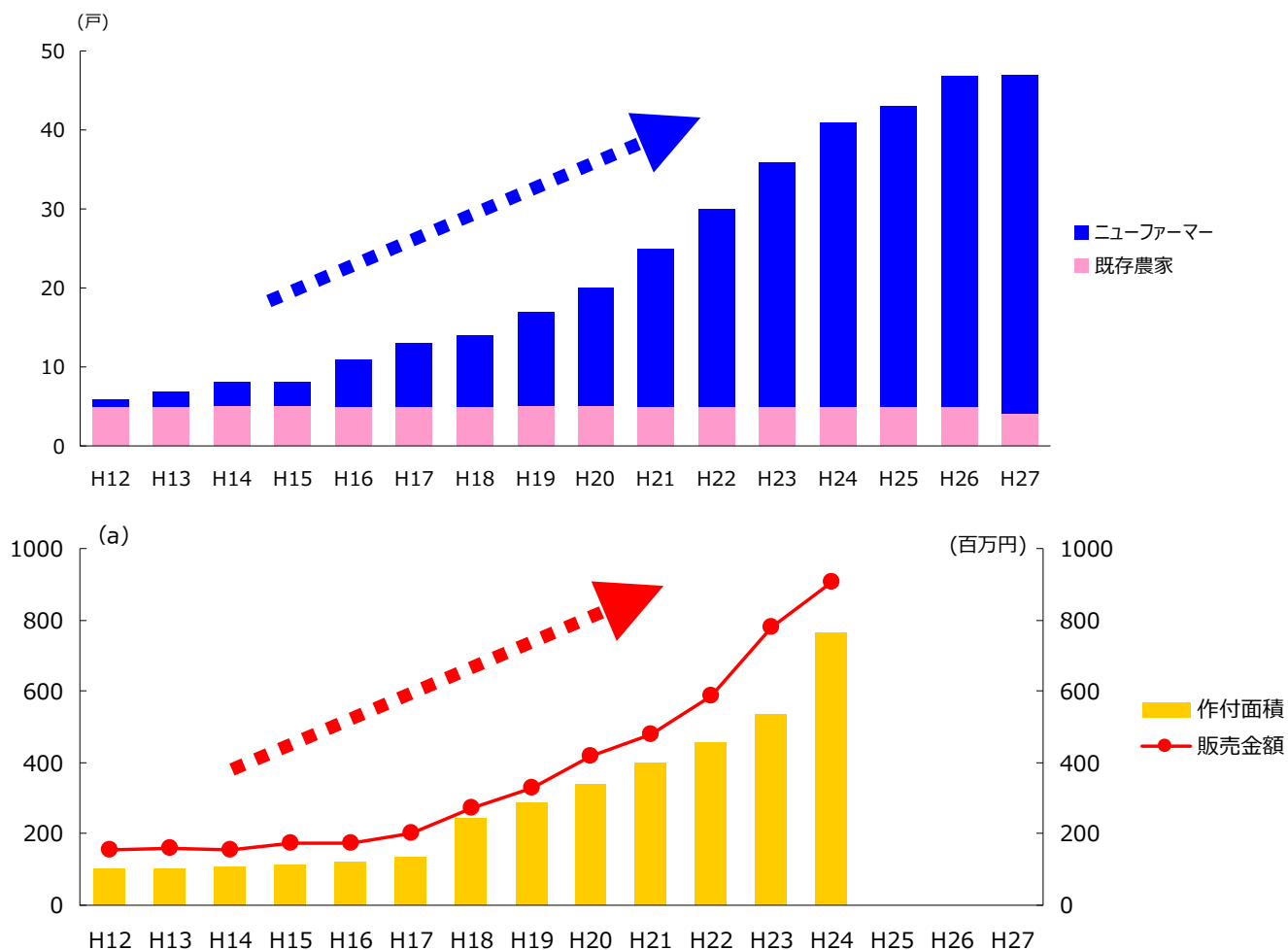
新規就農者の確保、6次産業化の取組や企業の農業参入を進めてきたが、農業産出額を押し上げるには十分とは言えず、マーケティング力とブランディング力が重要と認識。

## ○農産物の輸出に向けた体制の不備

農産物の生産拡大には、海外への販路拡大の取組が不可欠であるが、国際認証対応や販売システムなど、体制上の課題がある。

# 伊豆の国市 ミニトマトの新規就農者

- J A 伊豆の国ミニトマト部会は、47戸のうち43戸が異業種からの新規参入
- 同部会は、行政と連携して、技術指導のほか、農地の斡旋、販路の確保など、新規就農者でも、すぐに経営を軌道に乗せる支援体制を実現

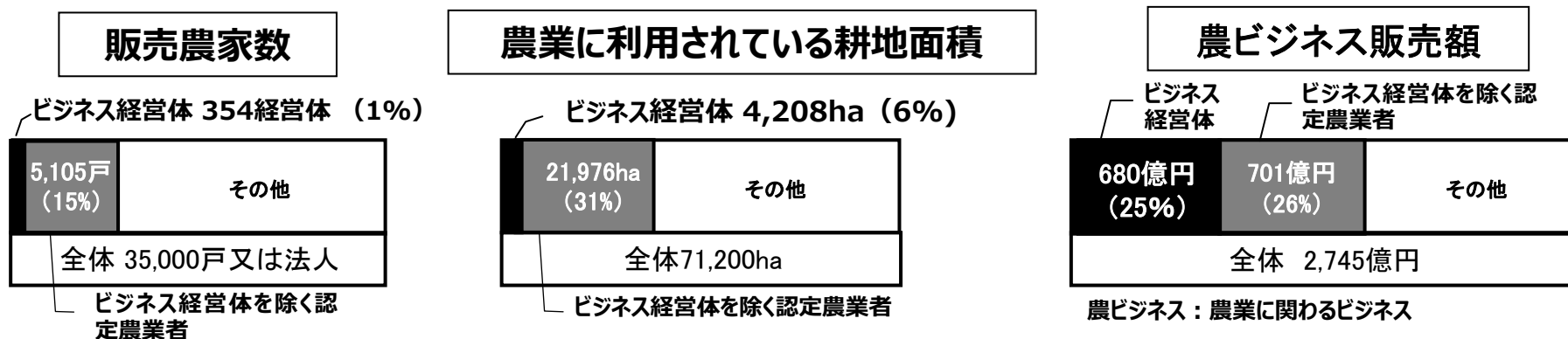


経営規模：30a  
 収穫量：30,000kg  
 粗収益：1,800万円  
 就農10年目

# 静岡県農業の課題②（農業の生産構造）

## ○家業から事業への流れが進んでいるが、更なる加速が必要

（現状：経営体数 1%のビジネス経営体が 25%の販売額シェア）



(注) ビジネス経営体：家族経営から脱皮し、企業的な経営感覚で地域の農業を牽引していく経営体  
 要件…経営承継される永続的経営体、雇用による労働力確保、一定規模の販売額（5,000万円）、マーケティング戦略による商品提供  
 認定農業者：農業経営基盤強化促進法に基づき、農業者が作成した農業経営改善計画を市町村長が認定し、この認定を受けた農業者

## ○茶生産については廃業が進み、産出額が減少しており、深刻な課題

## ○科学技術力の活用が部分的

## ○マーケティング・ブランディング力が弱い

⇒大きな潜在力あり。やり方次第 ⇒日本全体でも同様

# オランダ農業の強み

オランダの人口は日本の13%、農地面積は42%ながら、輸出額は28倍（世界2位）

- 産学官連携によるクラスター形成、コンサルティング・ビジネス
- 機械化、ICTの活用の追及
- 豊富な天然ガスを活用し、熱、電気、CO<sub>2</sub>を供給（トリジェネレーション）



園芸生産者や研究機関、関連企業等が集まったクラスターを形成



コチョウラン生産：ハウス内の移動等は機械で行われている



農業分野のIT化も進んでおり農業者の労務管理にも活用



天然ガスエンジンにより、熱、電気、CO<sub>2</sub>を利用するトリジェネレーションシステムを導入

	人口※ <sup>1</sup> (2013年)	国土面積※ <sup>1</sup>	農地面積※ <sup>1</sup>	農畜産物の輸出額※ <sup>1</sup>	農家1戸あたりの耕地面積※ <sup>1</sup>	トマトの単収※ <sup>2</sup>
日本	1億2,700万人	3,780万ha	456万ha	32億ドル (世界57位)	1.8ha	58.6t/ha
オランダ	1,680万人	415万ha	190万ha	893億ドル (世界2位)	25ha (日本の14倍)	478.8t/ha (日本の8.2倍)

※1 FAO統計（2011年）

※2 FAOSTATより日本総合研究所作成（2011年）



# 目指す姿 食用農産物の生産拡大を食品製造の生産拡大につなげる(4兆円産業へ) 流通・加工・販売・外食の利益を農業生産者に還元する

静岡県の食用農産物需要 (産地別)



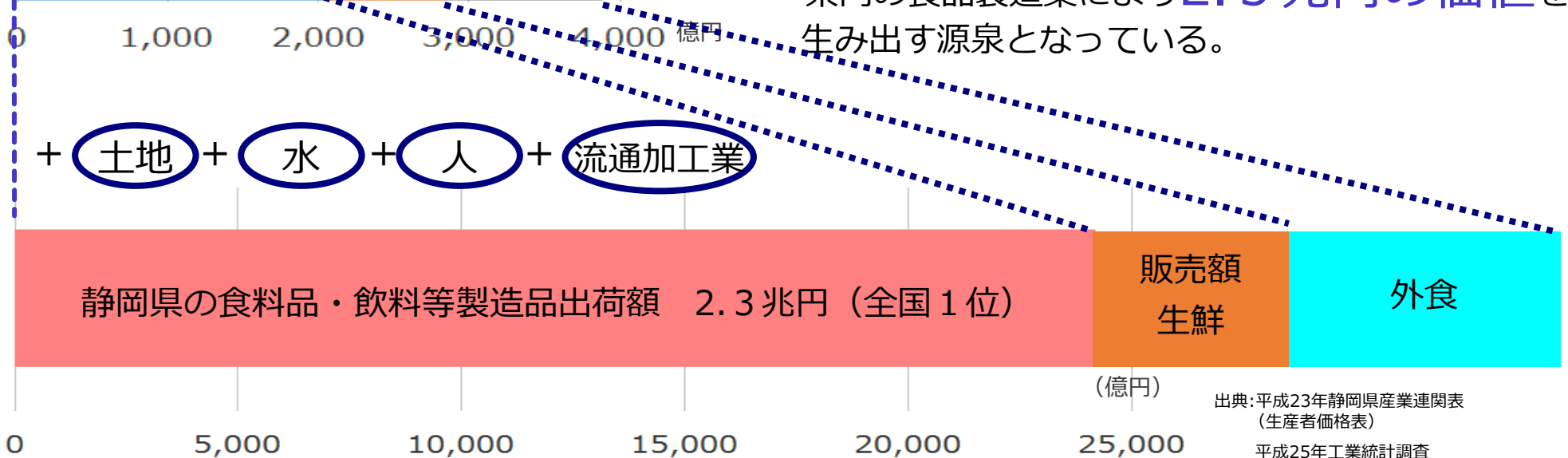
- 静岡県内の食用農産物の総需要額は3,887億円  
うち県内産は1,703億円で43.8%を占める

静岡県の食用農産物需要 (仕向け別)



- 食用農産物の総需要額のうち食品製造業の原料需要は、2,067億円で53.2%を占める。  
うち、県内産は905億円である。

- 県内産食用農産物**905億円**は、  
県内の食品製造業により**2.3兆円の価値**を生み出す源泉となっている。



# 個々人の努力だけでは対応できない、いまそこにある大変化

不都合な真実：匠の技をもった農業者の引退。国内マーケットの量的縮小

生産側・供給側の大変革：AI（アグリ・インフォマティクス）、AI（人工知能）  
高度計測技術 + IoTなどによる生産効率の革新

需要側の大変革：生命科学・医学（社会健康医学等）の進歩による  
予防医療の進化  
個別医療に対応した食品の機能性への需要の爆発

# 本日の内容

1. 静岡県農業の現状と課題
2. 目指す姿
3. 先端農業推進プロジェクト

# 静岡県農政の新たな展開

農政を取り巻く状況の大変化を踏まえ、アグリ・イノベーション（科学技術や場の力を活用した農業の革新）を中心とした新たな農政を展開していく。

## 経済・社会情勢の変化

- TPPなどによる農林水産物マーケットのグローバル化
- 高齢化や地域社会の人口の減少に伴う就農人口の減少
- 機能性食品やIT農業など食や農に係る科学技術の進展

## 静岡県の強み

- 温暖な気候と自然環境の下で多彩な農芸品を産出
- ものづくりや健康長寿を支える医療などの産業も活発
- ※医療品・医療機器生産日本一、食品、飲料品生産額日本一
- 健康寿命も日本一

## これまでの農政を根底から転換

- 農産物の生産最適化
- フォアキャスティング型（過去の延長上での現状改善）
- 部分最適（個々の取組を支援）
- 匠の技×場の力×思い

- 目指す価値（食文化と健康増進）を共有し、多様な産業や主体と連携して価値を共に創る（共創）
- オープンイノベーション
- バックキャスティング型（目指す姿の実現に向け改善）
- 全体最適（基盤や枠組を構築）
- アグリ・イノベーション（匠の技×場の力×思い×科学技術力）

## 農業・農村の目指す姿

### 【世界の健康長寿と幸せに食文化で貢献】

品質の高い農芸品を健康長寿と幸せを支える源泉として磨き上げ、付加価値を高めるとともに、効率化や低コスト化により生産性を革新し、世界に食品を提供する。

### 【イキイキ働き心豊かに暮らせる農業・農村の創造】

農業分野での所得が向上し、誰もがイキイキ働ける農業を実現。美しく品格のある、世界に誇れる農村の姿を実現する。

# 静岡県農業の目指す姿

価値の  
共有・共創

場の力

世界に貢献できる食文化と世界のモデルになる地域社会をみんなで作る

健康寿命世界一の実績

富士山を仰ぎ、温暖で  
水・空気・風景も美しい地域

質が高く多様な農芸品  
の生産力・人材力

ブランドの構築

理念と目標  
(世界のモデル)

高い競争力と持続的生産

世界の健康長寿と幸せ  
に食文化で貢献

イキイキ働き心豊かに  
暮らせる農業・農村の創造

AMFなど

オープンイノベーション

実現手段

アグリ・イノベーション

技術革新力・生産力

販売力・商品力・経営力

AI(農業情報科学)、AMFoS+

実現基盤

人材力

地域への思い

地域力

# 静岡県農政の新たな展開

(オープンイノベーションによるアグリ・イノベーション)

## AMFoS+プロジェクト

○健康増進のための機能性が科学的に明らかにされた農芸品・食品 (AMF : Agro-Medical Foods) の生産から消費に至るまでの最適なバリューチェーンを構築するための科学技術・産業振興のプロジェクト

## AI (農業情報科学)プロジェクト

○環境モニタリングやデータの解析により「匠の技」の継承や栽培技術の高度化を図る

## 農業用機械・ロボット開発プロジェクト

○ものづくり企業との連携により農業の作業負担を低減する農業用機械ロボットを開発 (オープンイノベーションのプラットフォームを構築)

## 農地の集積・集約×基盤整備×地域づくり

- 農地バンクを活用した農地の集積・集約により大規模経営を実現
- 次世代園芸施設団地、大規模水田・露地野菜複合経営の拡大
- 在来作物等の地域資源の活用により世界から人々を惹きつける農村の姿を実現

## ふじのくに仮想農業大学&リサーチセンター

- 静岡県立大学、農業大学校、農林技術研究所、農業高校等の教育・研究機関の再編・連携強化、県外研究機関・大学との連携強化により、農業分野の人材育成と研究開発に係る一体的な体制を構築
- 高大連携、大学院コースの設置により優秀な人材のキャリアパスを支援
- 研究機関から大学への講師派遣や共同研究により人材の活躍の幅を拡大
- 農業法人、食品等企業と医療・社会福祉法人との交流も行き社会健康医学等への理解を促進

場の力の活用

知の拠点  
(オープンイノベーションにより農業にイノベーションを起こす)

農食健医×商工連携

マーケット力の強化

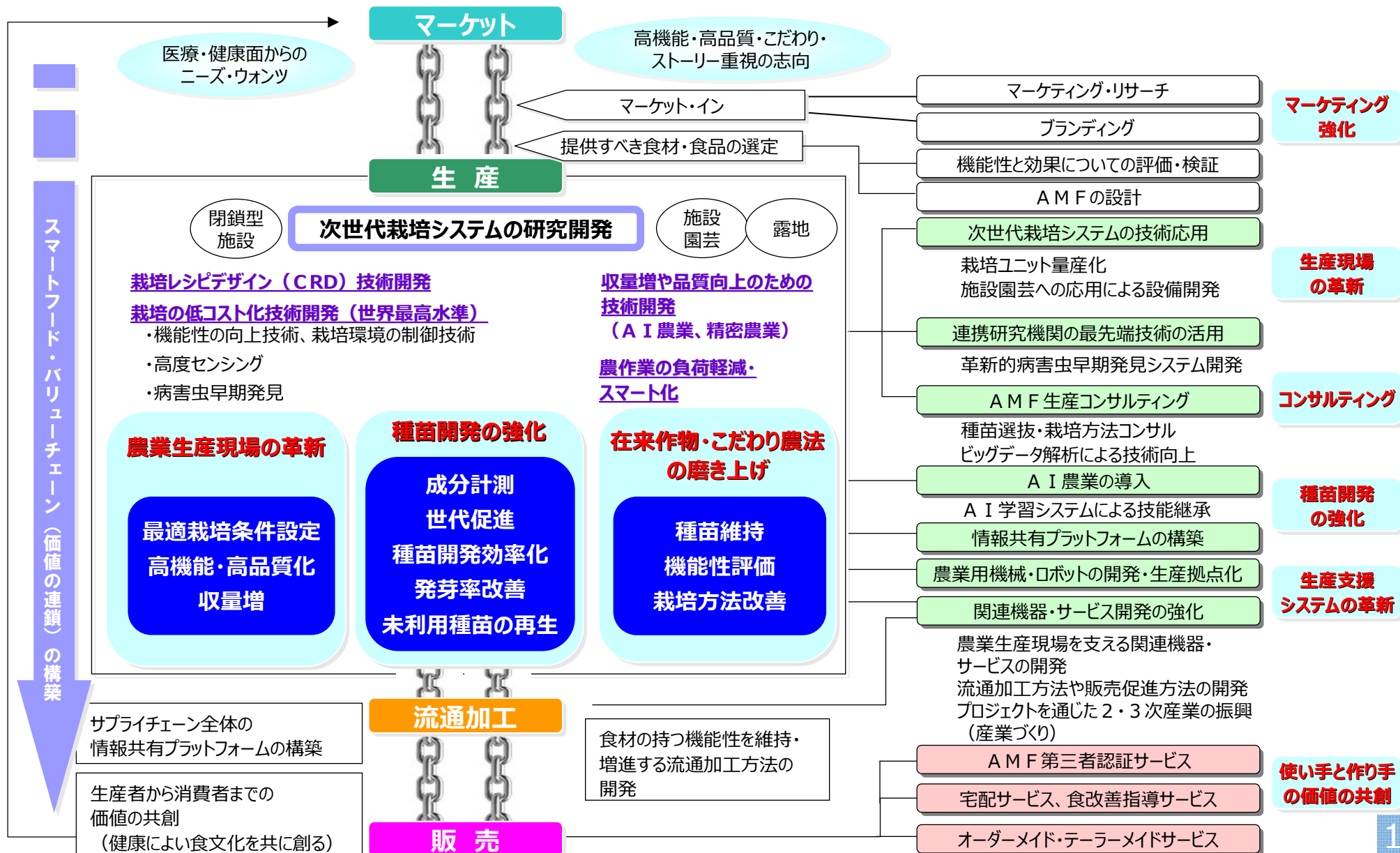
- マーケティング・ブランディングの強化
- グローバルなバリューチェーンの構築、消費者（使い手）と生産者（造り手）の価値の共有・共創
- 6次産業化、観光、外食産業、医療・健康・福祉産業との連携

# 本日の内容

1. 静岡県農業の現状と課題
2. 目指す姿
3. 先端農業推進プロジェクト

# アグリ・イノベーション・プロジェクト

地域の特性に応じたアグリ・イノベーション・プロジェクトを展開し、海外も含むスマートフード・バリューチェーンを構築するとともに、関連産業を振興する。





# 農業版オープンイノベーション・プラットフォーム(案)

産学官金、農食健連携を推進し、新産業を育成するとともに、地域経済を活性化するため、オープンイノベーション・プラットフォームを形成

- 県内外に広く成果を広報
- システムの有用性をPR

新たなシーズ創出やイノベーションを誘発

- 革新的な農業生産
- 農産物を活用した食品加工・流通・販売
- 農業の生産性を向上する装置・システム製造

## オープンイノベーション・エコシステム

一つの成果が新たなシーズの創出につながり、絶え間なくイノベーションが創出される好循環を形成  
生態系（エコシステム）のような環境・状態



# 農食健科学・産業イノベーションセンター・教育拠点の整備

AI（人工知能）、AI（農業情報科学）、IoTなどのICT等をはじめとする科学技術の急速な発展とTPPなどの外部環境の変化により、農業は生産性革命というべき大変化が見込まれます。

一方、需要側からは、ゲノムなどの生命科学や社会健康医学等の発達により、食と健康・病気の関連性が明らかになってきており、機能性食品に代表されるような健康増進効果の高い食品、その材料としての高質な農産物の需要が、アジア諸国の経済発展とあいまって、世界の中で急拡大することが見込まれます。

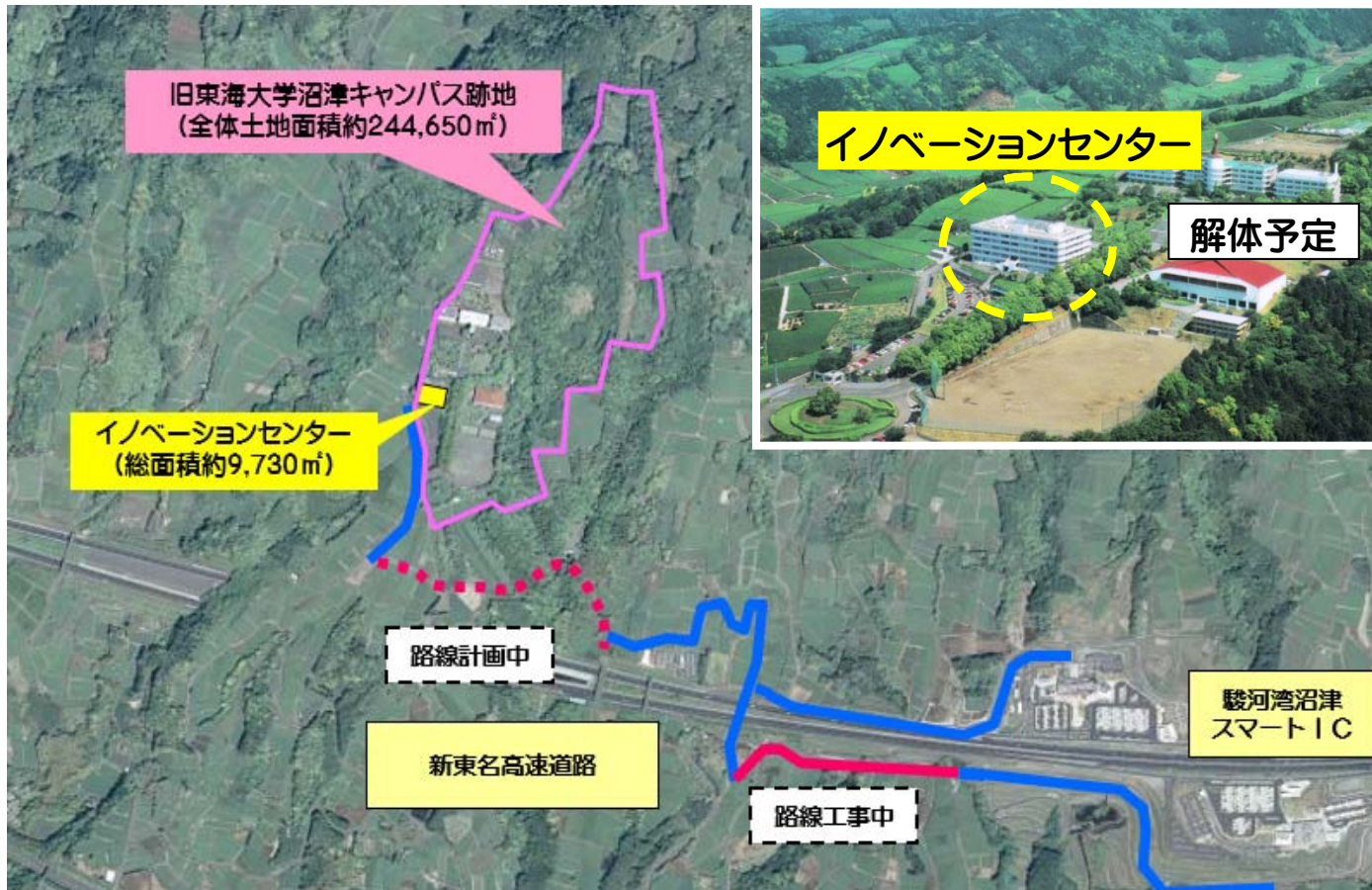
この大変化に対応し、農食健を総合した科学技術・産業において、産学官・農商工連携のオープンイノベーションにより新しい価値を創造する拠点を、静岡県沼津市に2017年に開所します。



センターから駿河湾を望む

項目	内容
設置・管理者	静岡県
所在地	静岡県沼津市西野
構造・面積	現況 RC地下1階、地上5階（8,800m <sup>2</sup> ）

# 拠点施設の位置等



センター全景、背後は愛鷹山、富士山前に美しい駿河湾を臨む



項目	内容
アクセス	JR・新幹線三島駅から車で約40分 (※新東名高速道路「駿河湾沼津IC」(H28年度末開通予定) 経由で約30分) JR東海道線原駅から車で約20分 東名高速道路「愛鷹PA・スマートIC」から車で約20分 新東名高速道路「駿河湾沼津IC」(H28年度末開通予定) から車で約10分

# 目指す姿：アグリ・イノベーションの研究・教育・知財ビジネスの拠点形成

## (1) アグリ・イノベーション+・プロジェクトの推進拠点

## (2) AMFの研究開発拠点

AMFoSセンターは、アグロメディカルフーズ (AMF) の考え方を中心に、健康増進効果の高い農産物、食品など健康長寿を志向する市場が求める食品を、科学的な裏付けの下に提供するシステムを構築することを目指すAMFoS+プロジェクト (Agro-Medical Foods Science Project) を推進する拠点

## (3) AI (アグリ・インフォマティクス) の研究開発拠点

AI (農業情報科学) を用いた匠の技の形式知化等による生産性向上・技術継承システムの開発・社会実装を推進する拠点

## (4) 次世代栽培システム研究開発拠点

- ① 最適な栽培システムを、栽培レシピ作成システム (CRDS) を用いて、栽培環境制御システム等の研究開発
- ② ゲノム等の知見を用いた種苗の新規開発
- ③ 生産現場の生産性に関するビッグデータを用いた生産性の継続的改善 (低コスト化、環境制御技術による育成環境最適化、病害虫早期発見・防除システムの高度化)

## (5) 研究・教育・人材育成の拠点

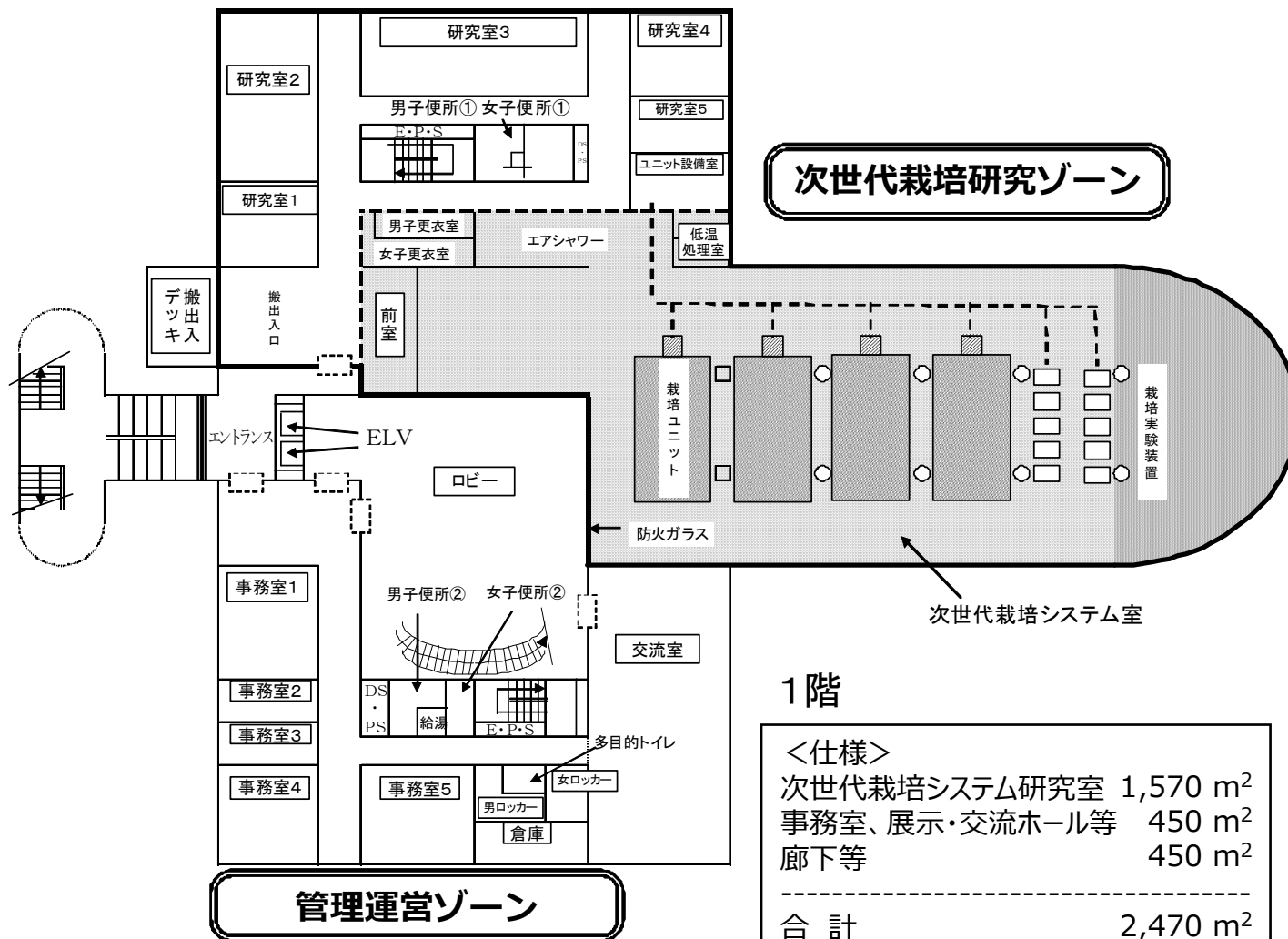
- ① 大学・大学院、研究機関、企業等の研究者の交流の促進
- ② 高大連携、高校生の科学キャンプなどの開催による優秀な研究者のタマゴの早期発掘・教育の場
- ③ 研究と企業ニーズのマッチングなどによる研究者のキャリアパスの構築等の、研究者の育成・支援の場

## (6) 知財ビジネスの拠点

- ① 上記 (2) (3) (4) の知財を活用したコンサルティング・ビジネスの実施
- ② 機能性に関する研究力を生かした新商品の開発のコンサルティング
- ③ 市場の反応のビッグデータを用いたAMF等の商品の魅力の継続的改善 (高機能化・高質化・効率化技術の磨き上げ) のコンサルティング
- ④ 生産システム (工場や農場) の設計、経営計画の策定

# 拠点施設の整備計画

## 1階 (次世代栽培研究ゾーン+管理運営ゾーン)



次世代栽培研究ゾーン

管理運営ゾーン

1階

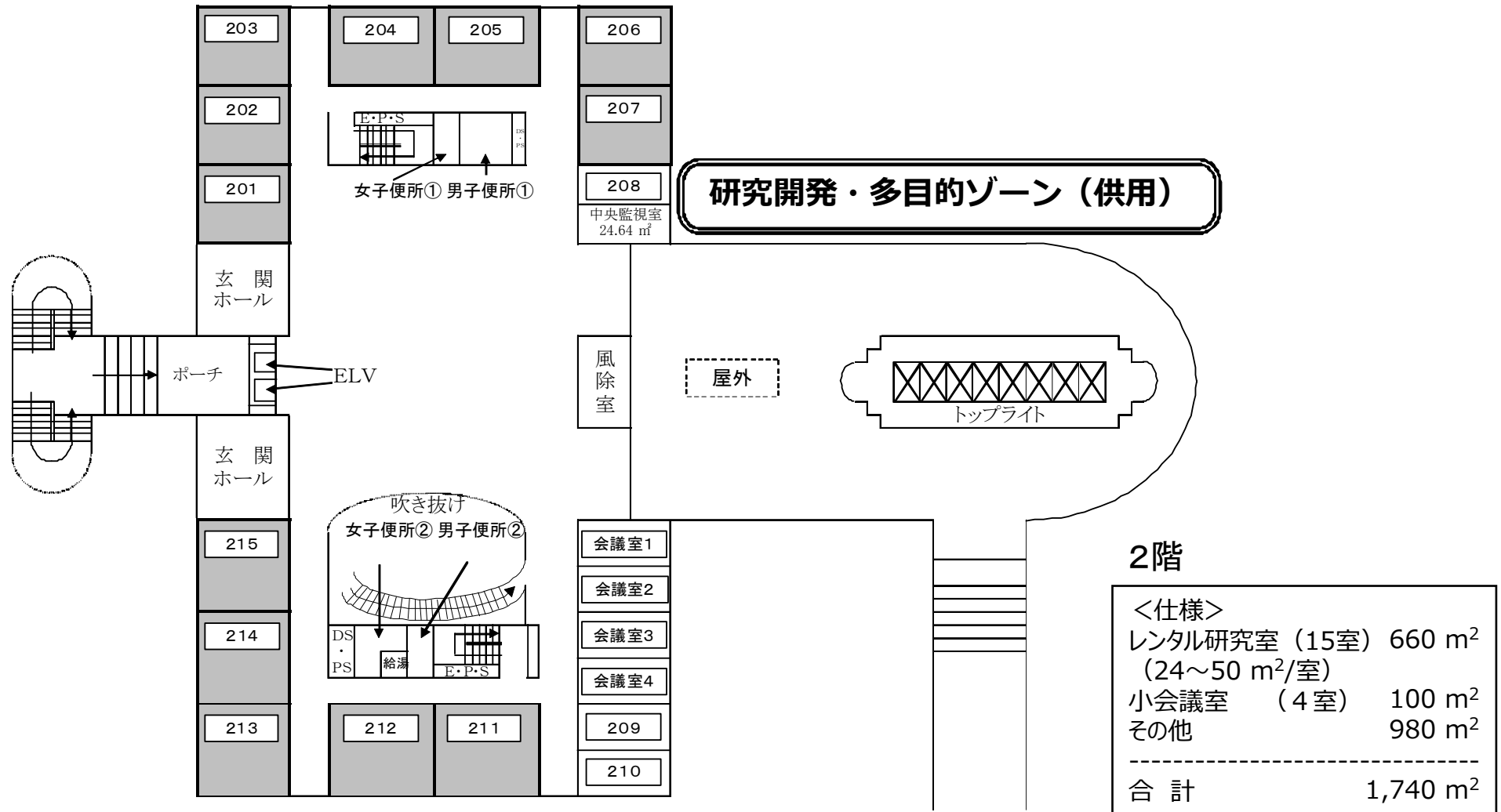
次世代栽培システム研究室	1,570 m <sup>2</sup>
事務室、展示・交流ホール等	450 m <sup>2</sup>
廊下等	450 m <sup>2</sup>
-----	-----
合計	2,470 m <sup>2</sup>

2階

次世代栽培システム研究室	1,570 m <sup>2</sup>
レンタル研究室 (15室)	660 m <sup>2</sup>
(24~50 m <sup>2</sup> /室)	
小会議室 (4室)	100 m <sup>2</sup>
その他	980 m <sup>2</sup>
-----	-----
合計	1,740 m <sup>2</sup>

# 拠点施設の整備計画

## 2階 (共用研究室+共用会議室ほか)



## 拠点施設への参加形態

### (1) 拠点への入居、研究型

センターに研究室を設け、単独又は共同プロジェクトを実施する。

### (2) 共同研究参加型

共同研究テーマに参画し、センター内外の研究機関、研究者、企業とともに共同研究を行う。

### (3) 研究開発依頼型

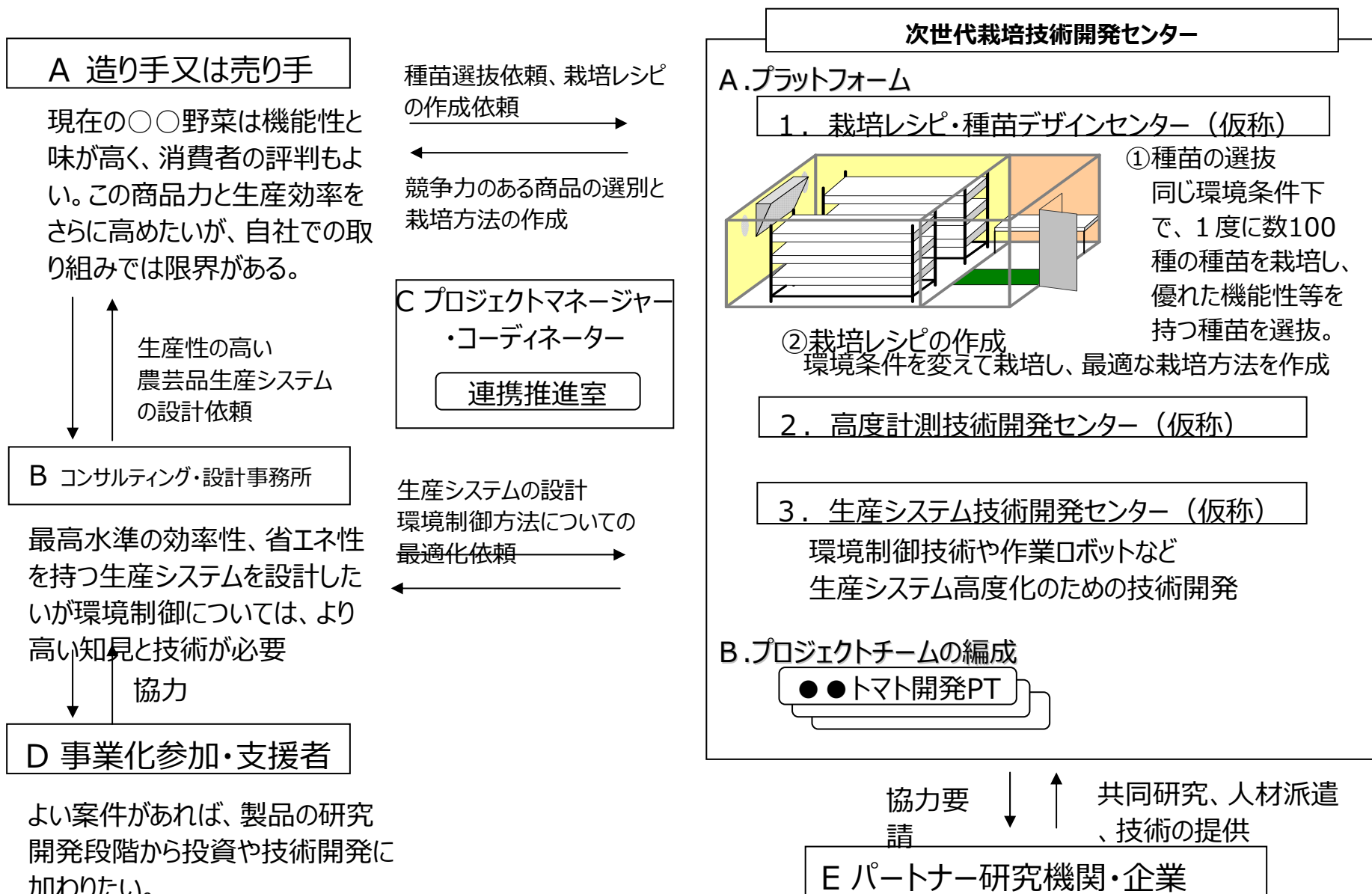
事業中又は事業化予定の事業の高付加価値化のための研究開発(栽培レシピの作成、環境制御システムの高度化等)をセンターのプロジェクトチームに依頼する。

### (4) プロジェクト支援型

事業化・商品化を検討中のプロジェクトに対し、資金・ノウハウ等を提供する。

### (5) 教育・人材育成型

# 活用イメージ:次世代栽培システムを活用した新商品と生産システム





# AI(農業情報科学)を活用した農芸品の栽培技術開発・継承・高度化

歴史・基盤

みかん



県産出額2位 (236億円)  
単価、数量日本一

いちご



県産出額5位 (108億円)  
「紅ほっぺ」の単価第2位

篤農家の「匠の技」による  
農産物の品質向上  
「農芸品」の確立



問題点

生産構造の高齢化

日本は平均年齢66.1歳

技術そのものが  
「暗黙知」であり、  
産地での共有・技能  
継承が行われていない

現状

時流

急速な農業IT、  
スマートアグリ的发展

農村回帰志向

農芸品生産のための匠の技の継承

～ 本事業により「暗黙知」を「形式知」に～

作物の生育ステージごとの栽培管理のポイントと最適な環境要因が明らかに

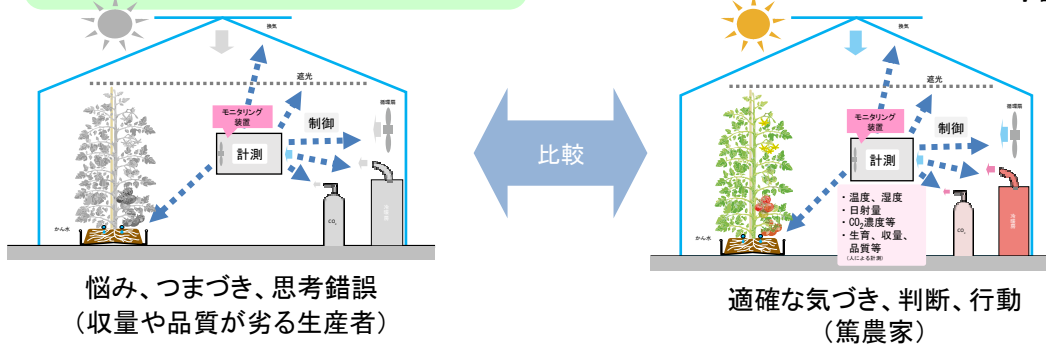
AI学習システムによる技能継承・技能高度化

篤農家の暗黙知を形式知化し、栽培技術の学習期間を短縮

- AIシステムは「気づき」をベースとした経験の蓄積による知識の形成を促し、熟練者の問題発見、問題解決能力を早期に身に付けるための学習プロセスを支援する仕組み。
- 「どんな状況で、どう判断するか」という問題及び正解と合わせ、篤農家の「気づき」を蓄積・共有することにより、匠の技を、経験の浅い就農者にノウハウ継承するとともに、栽培技術の高度化を促進する。

環境モニタリングとデータ解析

温度、湿度...などのビッグデータ解析により  
最適栽培技術を見える化し、伝承可能な技術に



病虫害(いちご炭疽病)の  
早期発見プログラムの開発

致命的なダメージとなる炭疽病の発生を  
未然又は早めに発見し被害の拡大を防ぐ

在来作物の技能継承

消滅の危機に瀕している在来作物の栽培を継承、収量の向上・安定化

移住・定住  
者数の増加

担い手  
増

農業の活性化・農業産出額の向上

産業の活性化・しごとづくり

# AI・高度センシングシステムを核とした農芸品の栽培技術開発・継承事業

項目	品目等	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)
AIシステムを核とした農芸品の栽培技術開発・継承	いちご みかん	AIシステムの構築のための調査及び検討会の開催 (J A伊豆の国、J Aみっかび)		AIシステム 完成版	生産者及び新規就農者の生産性向上のために活用 (県内全域)	
	他品目 (トマト・ ガーベラ等)	AIシステム構築のための調査・検証				AIシステム 完成版
光を用いた高度計測技術による病害虫の早期発見プログラムの開発	いちご 炭疽病	早期発見プログラムの作成 検出装置の試作	検出装置の評価、小型化	携帯型検出装置への改良・実証	検出装置の市販化、普及	

 さらに横展開（他の品目）を加速

# 活用例：先端計測技術による革新的防除対策の研究開発・実用化

## ■ イチゴ病害の炭疽病被害とその防除対策

- ・作物（イチゴ等）の植物病原糸状菌（カビ）による被害
- ・イチゴ炭疽病の静岡県年間被害金額約1.4億円・・・栽培面積330haのうち約14.2%（10年平均）で発生

病害苗をほ場や苗生産現場へ持ち込まない。現場で早期発見除去が重要

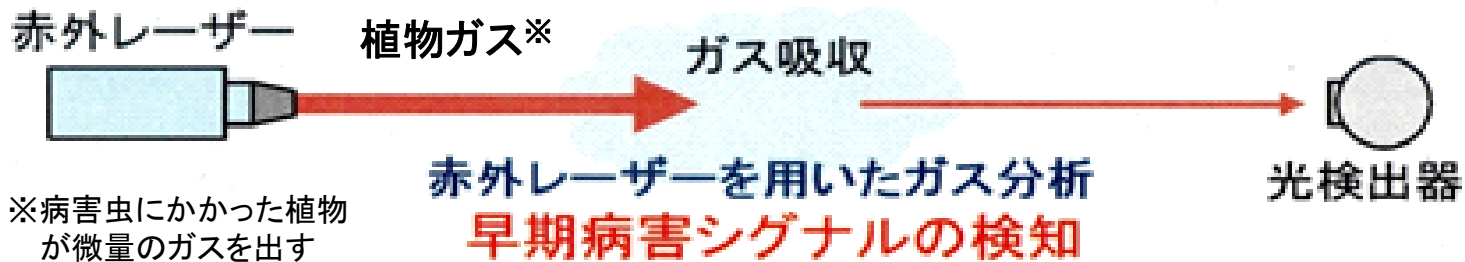
### 現在の防除対策

- ・苗の外観による診断
- ・農業従事者の経験的な診断  
（ヒトが感じる作物ガス濃度：ppbレベル）

### レーザーによる微量ガス分析法

- ・“非破壊”かつ“その場、診断”
- ・発症前又は初期の早期診断による適切な病害対応
- ・感染作物の迅速なスクリーニング・除去が可能

光技術を利用した全く新しいセンサー



**世界初 携帯型“非破壊、かつ、その場”病害診断センサーの開発と実用化**

研究レベルではすでに実用域へ→現場実装のための小型化（肩掛けレベル）

ICT活用農業事業化・普及プログラム平成26年度理化学研究所成果報告会資料一部改変

# アグロメディカルフーズとは

アグロメディカルフーズは以下の要件を全て満たす農林水産物をいう。

## 1. 科学的エビデンスの存在

農林水産物が有する特定の機能性成分の摂取による疾病予防と健康の維持増進効果について、

- (1) ヒト介入試験による科学的エビデンスが存在していること、または
- (2) 疫学調査により長期にわたる疾病予防・健康増進の効果が認められていること

## 2. 機能性成分の摂取可能性

ヒト介入試験または疫学調査から導かれる疾病予防と健康の維持増進効果の発現に必要な特定の機能性成分の摂取量（機能性成分必要摂取量）が明らかにされており、日常の食生活の中で農林水産物を通じて必要摂取が可能と認められること

## 3. 生産段階の含有量の確保と証明

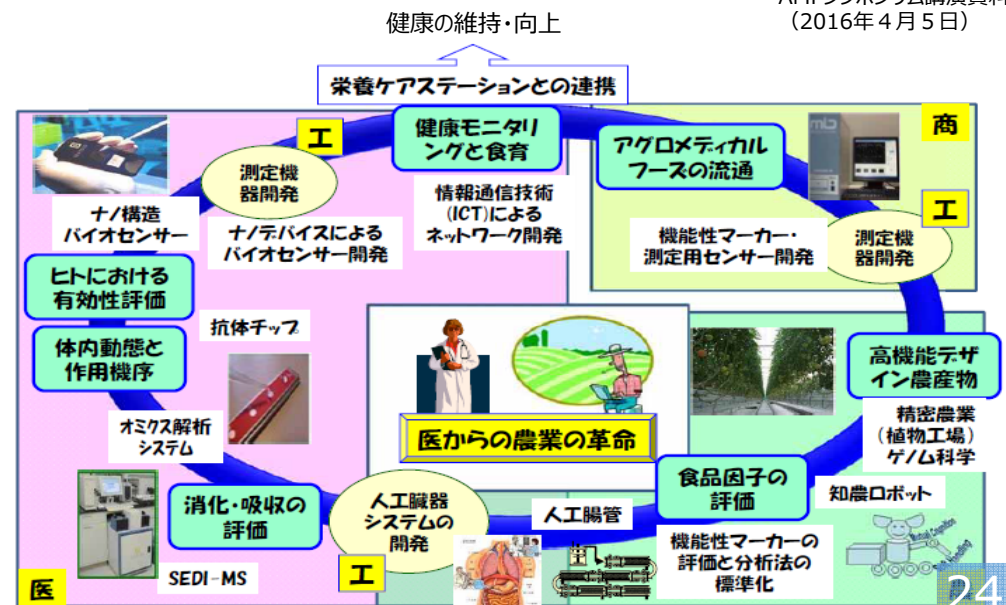
出荷段階における農林水産物の機能性成分含有量が、出荷後の保管、流通、加工、調理段階での変動と必要摂取量を勘案して設定されていること

アグロメディカルフーズ開発の管理点－医農工食の連携が求められる－  
機能性成分研究の現状（農産物ごとに整理）

農産物	機能性の確認			分析法の確立			農産物の供給		
	ヒト(疫学調査)	ヒト(介入試験)	動物	細胞	農産物・食品	生体試料	育種	栽培	加工・調理
タマネギ	△メタボ	△脂肪肝 △メタボ △認知症 ○ドライマウス ○ドライアイ	○メタボ ○認知症 ○黄斑変 ○ドライアイ	○メタボ ○認知症 ○ドライアイ	○ケルセチン	○ケルセチン	○ケルセチン	○ケルセチン	○ケルセチン
大豆	○メタボ	△脂肪肝 ○骨粗鬆 ○更年期 ○ドライマウス ○ドライアイ ○黄斑変	○メタボ ○骨粗鬆 ○ドライマウス	○骨粗鬆 ○ドライマウス	○イソフラボン		○イソフラボン	○イソフラボン	
茶		○免疫賦活 ○抗アレルギー	○免疫賦活 ○抗アレルギー	○免疫賦活 ○抗アレルギー	○ストリクチニン・ エピガロカテキン	○ストリクチニン・ エピガロカテキン	○ストリクチニン・ エピガロカテキン	○ストリクチニン・ エピガロカテキン	○ストリクチニン・ エピガロカテキン
リンゴ	○メタボ ○糖尿病 ○動脈硬化症 ○骨粗鬆	△メタボ	○糖尿病 ○動脈硬化症 ○認知症	○糖尿病 ○動脈硬化症 ○認知症	○プロシアジン	○プロシアジン	○プロシアジン	○プロシアジン	○プロシアジン
ミカン・ミカン果汁	○骨粗鬆 ○糖尿病 ○肝疾患 ○動脈硬化症	○脂肪肝	○メタボ ○骨粗鬆 ○脂肪肝 ○糖尿病 ○動脈硬化症	○脂肪肝			○β-クリプトキサンチン	○β-クリプトキサンチン	○β-クリプトキサンチン
ホウレンソウ	○黄斑変	△黄斑変	○ドライアイ △黄斑変		○ルテイン				
トマト・ナス			△メタボ △脂肪肝 △糖尿病	○メタボ ○糖尿病			○オスモチン	○オスモチン	

アグロメディカルフーズの開発構想

出典：  
AMFシンポジウム講演資料  
(2016年4月5日)



# 一般社団法人アグロメディカルフーズ研究機構

アグロメディカルフーズ（以下「AMF」）に関する調査研究、情報の収集及び提供を行うとともに、AMFの研究の振興及び社会への普及に関する計画の立案及び事業の実施への支援等を行い、AMFの価値や機能を高め、社会に普及することにより、世界の人々の健康寿命の延伸と幸せの増進及び関連産業の振興による経済活性化に寄与することを目的として設立（平成28年5月20日設立）

## （事業）

- ・ AMFに関する調査研究、情報の収集及び提供
- ・ AMFの研究の振興及び社会への普及に関する計画の立案調整
- ・ AMFに関する事業実施への支援及び助言
- ・ AMFの研究推進や社会への普及に必要な関連事業など

## （会員）

正会員 個人（年会費：一口5,000円）

賛助会員 団体（年会費：一口50,000円、入会金50,000円）

## （設立理事）

代表理事 吉川敏一（京都府立医科大学学長）

理事 澁澤 栄（東京農工大学大学院教授）ほか



設立記者会見  
（沼津商工会議所にて）

# 農・食・健に関する国際フォーラム(仮称) 開催骨子(案)

## 1. 開催時期

平成29年3月21日(火)

## 2. 開催場所

プラサヴェルデ(静岡県沼津市大手町1-1-4)

## 3. 次第

### (1) 国際セッション

アグロ・メディカル・フーズ(以下、AMF)やAI(農業情報科学)をはじめとするアグリ・イノベーションの世界水準の拠点を沼津市に形成していくことを国内外に情報発信するため、当該分野における世界レベルの研究員の講演等を実施する。

### (2) 国内向けセッション

国内企業の拠点を利用したプロジェクトへの参画への機運を醸成し、今後のビジネス展開に繋げるため、国内外の優れた研究員の研究成果やその社会実装についての実践的なセミナー等を実施する。

### (3) 交流会

## 4. 参加予定人員

200人超

## 5. 主催 静岡県

富国有徳の理想郷—しずおか



今年は静岡県誕生140周年

富国有徳の理想郷—しずおか

ふじのくに

